

TSS 献血キャンペーン「ありがとう！っていっぱい言わせて」

これは2006年に広島で放送された、一人の男の子の記録です。

あなたは献血をしたことがありますか？

(市民)「献血ですか？ありますよ。」

(市民)「(献血は)したことはないです。」

(市民)「あります。」

(市民)「ないですね。」

あなたは知ってますか？どんなときに血液が必要か？

(市民)「病院に行くんじゃないですか？手術とかの・・・。」

(市民)「事故して、血が足りないとき？」

(市民)「違う国の人にあげる。」

(市民)「事故したり、ね・・・。」(ほかには何か?)「ほかに何かありましたっけ？」

インターネット上の公開日記サイト、ブログ。その中に反響を呼んでいる記事があります。

タイトルは、『ありがとう！っていっぱい言わせて』

(母・きよみさん)

「私の4歳の長男は、小児ガンです。」

男の子の名前はりょうすけくん、4歳。

この記事を書いたきよみさんは神戸市に住んでいます。

きよみさんが記事を書いたのは、2006年の6月。1人でも多くの人に献血の本当の姿に気付いてもらいたいと、思いを込めて書いたものでした。

(りょうすけくん)

「ママ、お腹が痛い・・・。」

突然、りょうすけくんが体の異変を訴えました。明らかに普通とは違う状況に、きよみさんは病院に駆け込みました。そこで、医師から思いもよらない宣告を受けたのです。

(母・きよみさん)

「大人で言えば末期で、こういう病気で、もし、何の治療もしなかったら1ヶ月と言われたんです。」

神経芽細胞腫(しんけいがさいぼうしゅ)。副腎から発症するがんで、小児がんの中では、白血病の次に多いものでした。そして、事態は一刻を争うものでした。病魔はすでに、りょうすけくんの全身へと転移していたのです。

(りょうすけくん)「お家帰りたい・・・。」

抗がん剤による壮絶な治療が始まりました。

(母・きよみさん)

「ここまでかって思うぐらい、すごかったですね。もう・・・食べ物のお話をするだけでも、常に吐いてる状態。吐くでしょ？そしたら『布団さんごめんね』って、自分がしんどいの泣くんですよ。」

りょうすけくんの支えとなったのは、アニメに出てくるアンパンマンでした。体の中のばい菌をアンパンマンがやっつけてくれると信じていました。りょうすけくんにとってアンパンマンは、心の支えであり、ヒーローでもありました。しかし、抗がん剤は、りょうすけくんの体の血液を造る力をも奪っていったのです。

(母・きよみさん)

「一時は毎日のように輸血させて頂きました。あの子は輸血されると元気になることを知っていて『アンパンマンのエキスだ〜』と言っていました。アンパンマンのエキスが欲しいと言っていたんで・・・元気の素が欲しいと言っていて。りょうすけ、これで元気になれるよねって・・・」

「輸血が必要な時、今足りないのを待っていてくださいと言われ、祈るような思いで待っていたこともありました。早く！早くなんとか・・・ずっと苦しんでいる長男の手を握りしめながら祈るしかできないこの歯がゆさ。」

りょうすけくんの血液型はAB型。多い時には8人分の血液が必要でした。抱きしめたくても、抱きしめられない・・・。無菌室での長い夜が続きました。

日本では輸血用の血液を、全て献血でまかなっています。実は、献血で集められた血液のおよそ90%が、病気と闘う人に使われているのです。

【原因別輸血使用状況】(2004年東京都福祉保健調べ)

病気	87.8%
その他	9.6%
事故	2.6%

広島県で献血をされた血液は、このセンターに集められます。(赤十字血液センター)

毎日大量に必要とされる血液。広島県では、一日に400人の献血者が必要です。

日本全国になると、その数は14,000人。

これは、最低限必要な人数なのです。しかし、その現状は・・・。

(職員)「血液を保存している冷蔵庫です。ご覧のようにAB型がもうありません。」

この日は、他の血液型に比べてAB型が極端に不足していました。

そこに、病院から血液を依頼するFAXが入ります。

(職員)「A B型5本。非常に少ないですね。」

血液が足りない。急遽、岡山のセンターに連絡をとり、不足しているA B型の血液を分けてもらえるように手配します。

(高速道路を急ぐ職員)「大阪、福岡、東京からも血液をもらうこともあります。」

どんな手段を使っても、血液を届ける。広島から100キロ離れた中間地点の福山市で血液が受け渡されます。この様な「命をつなぐ血のリレー」は、綱渡りのような状態で毎日ように繰り返されているのです。

りょうすけくんに血液が届いたのは、丸一日たった深夜でした。ヘリコプターを使って運ばれたものでした。

(母・きよみさん)

「この子の命を救ってくれて、いま命を与えてくれてありがとうという気持ちがすごく強かったですね。」

治療中、りょうすけくんが受けた輸血は、50回を超えました。

(りょうすけくんの生前のビデオ)「ママ！」

りょうすけくんには夢がありました。大きくなったら、おうちに帰って、遊園地に家族で行くこと。

医師から外泊許可がありました。しかし・・・。

(母・きよみさん)

「病院の先生が『外泊した時、どこいくん?』と聞かれたんです。『遊園地に、本人、行きたいと言ってます』と言ったら『絶対、人ごみ多いからダメやって。』と言われたんですけど。普通の人よりも、免疫や抵抗力が全く無い状態なので・・・。」

数日後、誰もいない遊園地に、りょうすけくんと家族の姿がありました。

事情を知った遊園地が、開演前に貸切で開放してくれたのです。(当時：神戸ポートピアランド)

ひっそりとした遊園地で、家族4人が思い出を心に刻みつけるようなひとときでした。

(母・きよみさん)

「ずっとその景色を、ずっと憶えていたいんだろうなというような眺め方をしていました。『この道を、僕は通ることができたんよね。ママとパパと歩いたよね。』っていう・・・。これ以上ないかなという幸せですよ。」

大好きな家族と過ごした1ヶ月半。りょうすけくんにとって、ずっとずっと続いてほしい時間でした。

2ヵ月後、りょうすけくんは天国へ行きました。

最後の言葉は、「ママ、だっこ。」

(母・きよみさん)

「皆様の献血のおかげで、安心して治療を受けることが出来ました。ありがとう！ありがとう！」

きよみさんは、アンパンマンのエキスを記事に書きました。

「命のリレーが、途切れることのないように。」そんな思いを込めたものでした。

(母・きよみさん)

「今でも病院では、多くの子供達が輸血を待っています。子供達の笑顔が消えませぬようにと祈っています。」

すると、思ってもみないことが起こりました。

(投稿者)「血液が足りないなんて、知らなかった。」

(投稿者)「明日、献血に行きます。」

記事を読んだ多くの人から書き込みがあったのです。

善意の血。アンパンマンのエキス。

誰もが、アンパンマンになれることに気づきはじめてのです。

(母・きよみさん)

「本当にありがとうって思う。アンパンマンのエキスとして、りょうすけみたいに亡くなった人、子どもだけじゃなくて、大人も。みんな。きっと同じ思いだと思いますね。みんなに広まったらいいです。うれしい。」

「ねえ、いま何してる？ きょうもお空に向かって・・・ きよみ」

(動画 10分26秒)